安定的な雇用確保による施設キュウリ生産

～浅岡農園「五ヶ条」による雇用管理～

安城市　浅岡弘一（あさおかひろかず）さん
施設キュウリ

【平成２４年４月１３日掲載】

安城市で大規模に施設キュウリ経営を行っている浅岡農園を紹介します。経営主の弘一さんはキュウリ栽培に取り組んで４５年余りたち、奥さんの安佐子さんとともに規模を拡大してきました（写真１）。経営の特徴は、常時１０名以上のパートを雇用し、土日祝日でも安定した労働力の確保を行っています。

写真１　浅岡弘一さん、安佐子さん夫妻

１　ブランド「みどりの恋人」

浅岡さんは、ＪＡあいち中央胡瓜部会（６６戸）に所属し、部会員の平均経営規模が約２５aの中、５３aという群を抜いた経営を行っています（写真２、３）。昭和４０年に父親の跡を継ぎ、その後、補助事業を活用して規模を拡大してきました。

キュウリの栽培は９月下旬に定植し、収穫は１１月上旬から６月末まで行う長期一作栽培で、農協において共選出荷を行っています。浅岡さんの栽培のこだわりは、肥料として有機肥料を１００％使用しているところです。この肥料を使うことによりキュウリ本来の味を引き出すことができるそうです。生産物の一部は「みどりの恋人」というブランド名で、県内外のスーパーへ販売しています（写真４）。

写真２　ほ場内の様子

写真３　作業の様子

２　安定的な雇用確保

浅岡さんは、昭和５３年から雇用を導入し、安佐子さんが中心となって雇用管理を行ってきました。当時は近所の人に手伝ってもらっていましたが、浅岡さん夫妻より年配の人に作業の指示を出すには、かなり気を使われたそうです。

平成９年頃になると浅岡さんや関係機関の働きかけにより、農協が雇用の委託募集を行うようになりました。以降、農協を仲介して雇用を確保しています。

現在では３０から６０歳代までの女性１２名、男性３名の合計１５名のパートが、平日・土日祝日の午前８時から午後３時の間、シフト

写真４　みどりの恋人

を組んで、収穫・ツル下げ等の作業を行っています。ゴールデンウイークや年末年始の収穫作業が忙しいときでも、パートを安定的に確保しています。

また２年前から息子さんのお嫁さんの周子さんが作業を手伝うようになりました。貴重な担い手である一方、キュウリ生産への理解を深めてもらえ、家族団らんの時間でも、キュウリの話題で盛り上がっているそうです。

３　浅岡農園「五ヶ条」

安佐子さんは「パートさん達には気持ちよく働いてもらっている」と語ってみえます。それは、長年の雇用管理の経験を生かして、雇い主とパートが良好な関係を結べるよう浅岡農園「五ヶ条」を取り決めているからです。

その内容は、

・第一.「あいさつ」の励行。パート同士でもあいさつを明るく、はっきりと行う。
・第二.「始業時間」の厳守。５分前には仕事に取りかかれるように準備を行う。
・第三.「交通事故」の防止。落ち着いて運転し、事故を起こさないようにする。
・第四.「作業能率」の向上。作業はきびきびと行い、集中・能率を上げ、分からないことは質問する。
・第五.「感謝の心」を忘れない。家族、キュウリ、周りの人に感謝の気持ちを持って接する。

これらは全て基本的なことですが、これによりパートさんとの信頼関係ができ、快適な職場環境づくりが行われています。

４　技術力と販売力は大切

「土を大事にして、有機肥料による栽培で品質の良いものを生産し､少しでも高く売りたい。」「栽培技術があれば８０歳や９０歳でも仕事ができる。技術力と販売力は大切だ。」と語る浅岡さん。「最近は、重油が高騰しキュウリ生産をやめていく人もいる。逆にそれがチャンスである。」と語っていただきました。

写真５　夢を語る浅岡夫妻

一方、「今が一番楽しい」と語る安佐子さん。「みんな気持ちよく働いてもらっている。仕事があるだけありがたい。」、「キュウリのおかげで健康と生きがいをもらっている。」と生き生きと語っておられました（写真５）。

執　　筆：農業経営課
取材協力：西三河農林水産事務所農業改良普及課

Copyright (C) 2012, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.